禅定寺

禅定寺は 1000 年以上前の歴史をもつ仏教寺院です。宇治田原の町に位置し、(歴史的な自然環境保全地域) その美しい茶園で知られる京都と奈良との間に位置し、歴史的に「宇治田原越として先がけとなるお寺」と称されています。今日では、歴史的に有名な仏像(仏教寺院の彫像)と禅定寺について記載された歴史的な文書等の重要な文化財を収蔵することで知られています。寺院の建築と庭園もまた素晴らしいです。本堂は大きな茅葺き屋根を持つ 17 世紀の代表的な寺院建築であり、庭園では毎年干し柿が作られる柿の木が茂っています。

歴史

禅定寺の土地はもともと当時日本を支配していた藤原氏の夏の別荘でした。しかし、藤原家の敬虔な要請に応え、皇室の勅令により、991 年(995 年に完成)に奈良の有名な東大寺の寺院として設立された。この時期に造られ祀られた木製の仏像のいくつかは、重要な文化財に指定されています。

12 世紀後半には、世界遺産である平等院の末寺として改宗されました。その後、1680 年に曹洞宗寺院に改宗される前、数世紀に渡り寺院は廃れてしまいました。その後、月舟(1618-1696)という名前の有名な僧侶の管理下で、庭園は再建され、禅堂を持つ本堂が加えられました。この本堂は今日まで残っており、当時の寺院建築の特徴である大きな茅葺き屋根を維持しています。今日、寺院の施設は庭園と 5 つのお堂、僧房、および宝物殿で構成されています。

禅定寺は、京都府綴喜郡の宇治田原町にあり、古来より「宇治田原越として先がけとなるお寺」と呼ばれています。禅定寺にある旧道は、平安時代(794-1185)より旅人にとって日本の主要道路のひとつであった「東海道」に繋がっており、京都の山城地域と近江地域(現在の滋賀県)を結ぶ近道として利用されていました。

宝物と芸術品

禅定寺の宝仏殿には、平安時代（794－1185）のいくつかの国指定重要文化財があります。最も貴重なものとして、木像の「十一面観音立像」があります。そのほかの重要文化財としては、以下のものがあります。日光菩薩（日光の仏様）、月光菩薩（月光の仏様）、四天王、文殊菩薩騎士像（獅子に乗った仏様）、地藏菩薩踏下蔵（延命地藏）、大威徳明王（死の征服者）。